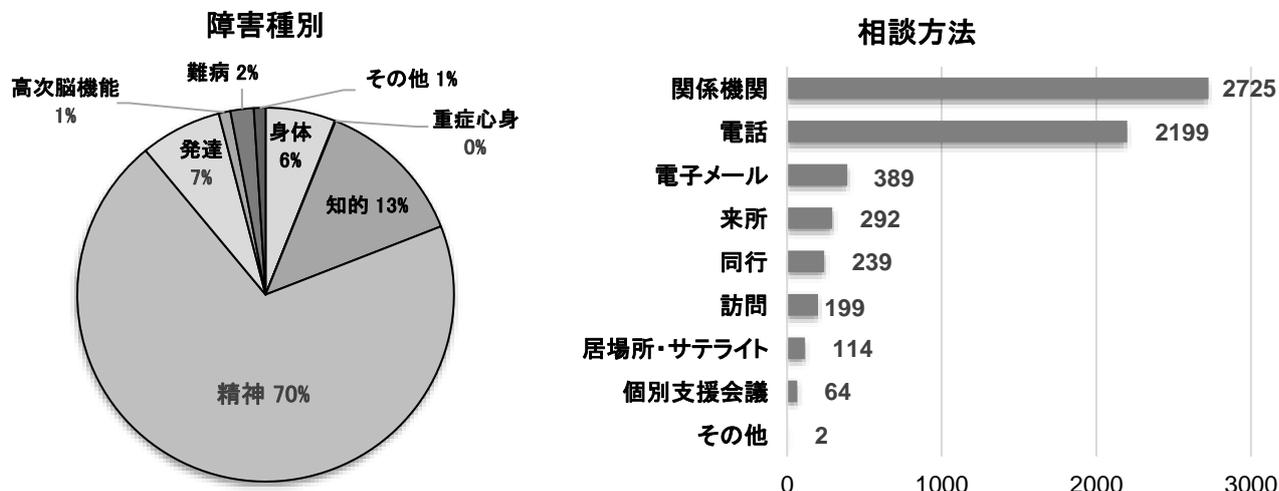


2023 年度 事業報告

施設名 地域障害者相談支援センター ぽーとたまがわ

1 利用状況

事業名：(区委託) 地域障害者相談支援センター 相談者数 455 名 相談件数 6,109 件



2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

① 基本相談支援

- 精神障害の方の相談が全体の約7割を占めている。特に精神障害の方の相談は課題が多岐にわたっているため制度や社会資源だけでは解決できない「狭間」の相談に関しては、寄り添い、伴走をしながら粘り強く支援をしてきた。
- 新事務所に移転したことで、ぽーとたまがわの存在を地域に知ってもらうことができたことから、新規相談の増加や初めて相談につながったという声も寄せられた。

② 地域包括ケアシステムの推進に向けた対応

- 四者連携会議は地区ごとに担当を決め、毎月継続して参加してきた。その結果、玉川地域7地区のまちづくりセンター、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、児童館と顔の見える関係ができ、昨年度に引き続き、各機関からのケースの相談が増えている。特に虐待ケース等緊急度の高い8050世帯の相談や医療や支援につなげていないケースに介入することができた。
- 精神障害があるがどこにもつなげていないケースにおいて、医療機関や健康づくり課等と連携をとりながら、精神科クリニックにつなげたり、訪問看護を導入するなど、必要な資源につなげられるように支援した。

③ エリア自立支援協議会事務局

- 保健福祉課、会長と協力しながら、エリア自立支援協議会が円滑に運営されるよう努めた。昨年度に引き続き「障害がある方の地域生活を支える仕組みづくり」をテーマに取り組み、グループワークで課題の抽出や取り組みたいことについて協議した。
- 11月には地域ケア連絡会と共催（拡大地域ケア会議）で、「地震（災害）に備えてそれぞれができること」をテーマにワールドカフェ形式でグループワークを行った。高齢、障害関係者100名以上の参加があった。

④ 指定相談支援事業者への支援

- 2023年度は相談支援事業所連絡会を2回開催。事業所間の情報共有や保健福祉課障害支援と協力して

事例検討会を行なった。また、保健センターと協力し高次脳機能障害の事例検討会を行う等、相談支援事業所の支援力向上に努めた。

- ・指定特定相談支援事業所で対応が難しいケースを引き継いだり、対応が難しい部分をぼーとで対応したりと事業所の後方支援をするケースがあった。

⑤ 権利擁護のための支援

- ・成年後見、あんしん事業の案内や成年後見センターと連携し利用をするケースがあった。
- ・社会福祉協議会主催の福祉体験学習に協力し、障害当事者の日常生活を知ってもらう機会をつくり地域への障害啓発に努めた。

⑥ 居場所づくりへの取り組み

- ・カフェこみんを毎月1回、定例で開催。カラオケ大会、コーヒー飲み比べ、施設物品販売会などさまざまな企画を実施し、楽しいひとときを過ごした。
- ・ボッチャ交流会を毎月4月曜日、玉川地域社会福祉協議会、地域関係団体の協力のもと定例で開催。地域住民も参加するなど好評を得ている。

(2) 地域交流

① 地域との関係づくり

- ・関係機関が主催するイベントや会議等に積極的に参加し、地域との顔の見える関係づくりに努めた。
- ・あんしんすこやかセンター主催の多職種連携会議や社会福祉協議会主催の地区サポーター懇談会、民生委員協議会において、ぼーとの事業や障害福祉サービスについて説明するなど運営に協力した。

(3) 家族、関係機関との連携等

① 関係機関との連携

- ・必要に応じて、各関係機関と情報の共有、支援の方向性の検討などを相談しながら支援を進めることができた。精神障害の方の支援に関しては、健康づくり課の保健師や訪問看護などの医療機関と連携し助言を受けながら支援にあたった。
- ・関係機関にどういうお願いができて、どこまで対応してもらえるのか？ということや支援の方針の統一ができずに関係機関との連携に苦慮するケースもあった。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

① ピアサポーターの活用

居場所事業において世田谷区のピアサポーターを派遣してもらい運営の協力を得た。

② 他機関の実習生への協力

あんしんすこやかセンターの実習生にぼーとの説明をした。

(5) 危機管理

① 感染症対策

引き続きマスクの着用、手洗い消毒等、引き続き感染症対策を講じながら業務にあたった。

② BCP

事業所のBCP作成のため管理者が研修に参加するなど準備を進めた。

(6) 職員研修の実施

① 外部研修

東京都中部総合精神保健センターや世田谷区福祉人材育成センター主催の研修、その他機関が開催する研修及び法人内研修に積極的に参加した。また、あんしんすこやかセンター主催の多職種連携の会に参加し、他事業所の実践事例を学び、ディスカッション力の向上に努めた。

② ぽーとスキルアップ研修

基幹相談支援センターの開催するスキルアップ研修に2名が参加し支援力の向上を図った

③ 相談支援専門員初任者研修

相談支援専門員初任者研修に2名が受講した。ファシリテーターとして2名が協力した。

(7) その他（苦情・事故等）

① 利用者からの苦情

関係機関との連携不足により、利用者や関係者から苦情が寄せられたケースがあった。

② 事業所管理上の事故

退勤時に事務所の鍵の閉め忘れが2回あった。

3 重点目標と取り組み・成果

① 障害がある方が地域で自分らしく暮らしていくための相談支援の質の向上に取り組む

OJT やスーパーバイザーによる内部研修と外部研修に参加を通じて各職員の支援力の向上に努めた。また、毎月、相談支援ミーティングを開催し、困っているケースの共有や支援の方法を検討する機会をつくった。支援においては、ぽーとで抱えこまないよう、関係機関と連携に努め支援方法等、相談しながら対応した。

② ぽーとに集まる様々な情報を利用者や関係機関に発信できるよう情報発信力を強化する

法人のホームページを活用して、ポッチャ交流会やカフェこみんの情報を発信した。また、四者連携会議等の多くの関係機関が集まる場において、障害関連の情報の発信に努めた。一方、利用者への発信においては、必要に応じて相談の際におこなったが、その他の方々などへ広く情報を発信するという点については課題がある。

③ 居場所づくりへの取り組み

ポッチャ交流会、カフェこみんは、参加メンバーを定着することができた。地域住民の参加もあり地域住民への障害理解の場にもなっている。ポッチャ交流会は、玉川地域以外からも参加者が集まるなど、参加人数も増え盛況である反面、場所の大きさが課題となっている。また、情報広場においては、面談で来所した方が閲覧する程度であったため、今後の活用方法を検討していく。